

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年9月17日

【評価実施概要】

事業所番号	0175800333		
法人名	株式会社 日東総業		
事業所名	グループホーム なかま		
所在地	〒069-0237 空知郡南幌町栄町1丁目1番6号 (電話) 011-380-4360		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成21年8月17日	評価確定日	平成21年9月17日

【情報提供票より】(平成21年7月23日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和	平成	15年	12月	1日
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9	人	
職員数	10人	常勤	4人,	非常勤	6人, 常勤換算6.7人

(2) 建物概要

建物構造	木造モルタル	造り
	2階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000	円	その他の経費(月額)	15,000~21,000	円
敷金	有()	円		無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有()	円	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食		円	昼食	円
	夕食		円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000	円	

(4) 利用者の概要(8月17日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名	
要介護1	1名	要介護2	3名			
要介護3	2名	要介護4	2名			
要介護5	1名	要支援2				
年齢	平均	86歳	最低	80歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人やわらぎみどり野院、国民健康保険町立南幌病院、栗山赤十字病院、加藤歯科
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、平成15年に地域の要望を受けて設立し、南幌町の中心地に立地している。基本理念・ケア理念が事業所の運営全体に浸透し、「利用者職員、家族、地域が仲間となって共に支えあう生活」の実現と、地域との良好な関係構築がなされている。事業所の専門性と地域の様々な社会資源を活用したきめ細かいサービスを展開し、より質の高いケアと適切な運営を目指している。保健師・看護師資格を有する管理者の指導の下、職員は多角的な視点を学びながら、一丸となって支援に努めている。平成19年に利用者の高齢化と身体状況に合わせて、2階の居室を1階に移すための増築がされ、その後も引き続き施設の設備の細部に至る改善の検討を行うなどしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価では家族への報告が課題の一つとして挙げられていたが、「なかま通信」の頻度を2ヶ月に一度に増やし、毎月の金銭出納報告時に個別の利用者の暮らしぶりを添えて郵送するなど、より緊密な報告を行う等の改善を行っている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、数回のミーティングを開き行っている。職員全員で日ごろのケアを振り返りながら項目に沿って検討し、管理者が取りまとめを行っている。実際に行っている内容と、どのようなことに留意しているかなども記載し、改善に努めている。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議では、前回の外部評価の結果を受けて、災害時の地域との連携について話し合っている。事業所にとって必要なこと、地域とどんな協力ができるのかを参加者それぞれの立場で整理し、事業所としての体制作りを活かしている。運営推進会議を通し、日々の暮らしの様々な話題や安全への取り組み、非常時の備えについて話し合いを行うことで、利用者の安心へと繋げる取り組みを行っている。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>玄関に「ご意見箱」を設置している。利用者や家族に対し、重要事項説明書で対応方法や再発防止につなげる仕組みを明らかにし、日ごろから信頼関係を大切にすることで、どんな意見でも言いやすい雰囲気作りを努めている。寄せられた意見・苦情等は、職員がミーティングで話し合いを行い、直ちにケアや運営に反映する仕組みを整えている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の一員として町内会、商工会、商店会に加入し、利用者が参加できる地域行事には積極的に参加をしている。事業所の取り組みを知ってもらう機会として、中学生の体験学習の受け入れや、プライバシーに配慮しながら利用者の暮らしぶりを写真で伝える「なかま通信」を発信するなど、地域の中での相互交流を意識した活動を行っている。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人としての基本理念を踏まえて、「ゆったりと楽しく 自由にありのままに 馴染みの地域の中で 家族の絆を大切に 心を通わせ共に支えあう生活」を、事業所独自のケア理念として定めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員全員が基本理念とケア理念の記載されたカードを携帯し、理念の共有を図っている。ケア理念である「ゆったりと楽しく」が実践できるよう、業務が集中する時間帯の職員配置を特に厚くするなど、環境作りにも配慮している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は町の中心街に位置しており、町内会や商工会等に参加している。地域住民と気軽に声を掛け合うなど、日常的に交流することに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、職員全員で数回のミーティングを重ねて実施している。管理者と職員は共に、自己評価について日ごろのケアの見直しや再確認という意識を持ち、自己評価の項目一つひとつについて取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月ごとに行っている。事業所運営や外部評価結果の報告と共に、参加者から意見交換を行っている。災害時の連携等についても、運営推進会議を通じた協力体制の構築を進めている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	南幌町役場の保健福祉課健康づくりグループと連携し、地域包括支援センターへ相談・助言を受けるなど日ごろから相談できる関係となっている。また、非常時の対応について、消防署から指導を受けている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の写真が多く掲載された「なかま通信」は2ヵ月ごとに郵送し、金銭の出納報告と個々の利用者の暮らしぶりを記載したものを、毎月郵送している。家族が来訪した際には、職員が積極的に日常の様子を伝え、利用者や家族との交流が深まるよう配慮している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	内部・外部の苦情受付機関を整備しているとともに、玄関に「ご意見箱」を設置している。苦情の処理体制や手順については重要事項説明書に記載している。また、家族の来訪時は、話しやすい雰囲気作りを心がけ、利用者の生活や支援について意向を聞いている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は職員の労働環境に配慮し、職員の離職をなるべく抑えるようにしている。また、同法人の他の事業所等への異動は行われていない。新しい職員を採用した場合も、事業所の方針に沿ったケアが実践できるように、一定期間は2人体制とすることによって、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月のミーティング時に行われるミニ学習会では、利用者に関連する事例研究や、職員が疑問に感じている問題を取り上げている。外部研修についても、職員が偏りなく研修を受けられるよう配慮するとともに、職員の意欲を大切に、シフトの調整や費用の補助など、研修に参加しやすい環境を整えている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協議会や認知症ネットワークに加入し、情報の共有や知識の取得を行っている。管理者は、他の事業所との職員交流の活動を通じて、職員の資質の向上と活性化へ結びつける取り組みの必要性を認識している。	○	他法人の事業所とは、組織ネットワークによる研修会等での連携や交流を実施している。さらに、職員が訪問研修等を通じて、運営やサービスの実際を学び、研鑽する取り組みに期待したい。訪問交流では、多様な調整や配慮を要すと察するが、同業者間で共通の目的を有し、実現されることに期待する。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になじめるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に家庭を訪問し、これまでの生活や思いを聞いた上で見学を行っている。見学時にはおやつと一緒に食べるなど、利用者が雰囲気になじめるよう工夫をしている。利用開始前から、職員間で対応の方法など統一したケアができるよう情報を共有している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者と互いに信頼を結び、人生の先輩として尊敬をもって接している。利用者の得意とする生活場面で地域の昔の様子や知恵を学び、さりげなく支え、日々の喜びを分かち合っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴等の情報を記録するとともに、家族や利用者の意向を日常的な場面の中から把握するように努めている。職員が個別に把握した情報を共有し、本人の視点に立って検討するなどの取り組みを行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、3ヶ月ごとに作成しており、日々の記録やケアカンファレンス及び日常場面を含めて職員の報告や意見を取りまとめ、課題分析と共に情報を蓄積している。家族・本人の意向や気持ちを聞いて得られた内容を、独自に作成したモニタリングシートを活用し計画作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月ごとのアセスメント、3ヶ月ごとのモニタリングの他、毎月のケアカンファレンスで利用者ごとの状況の報告・検討を行っている。また、利用者の生活や健康面で変化の予兆をつかみ取った場合など、必要な都度、適切な支援や対応についてミーティングで検討している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が帰宅の意向を示した場合など、家族と連携しながら気晴らしを行ったり家族の元へ送るなどの支援を行っている。また、家族等からの様々な悩みの相談に対して、事業所の専門性を踏まえたアドバイスをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診を支援するとともに、事業所に隣接する医療機関と、緊急時にも対応できるよう協力関係を築いている。また、職員は管理者に、24時間いつでも連絡を取れる体制となっており、緊急時は管理者の指示のもと迅速に対応する体制となっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重要事項説明書に事業所としての方針を記載し、契約時に本人や家族と話し合っている。本人の意向の確認が難しい場合は、家族の意見を聞いて、アセスメントを行っている。また、利用者の意向が変化するたびアセスメントに記載し、方針の共有を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	事業所には個人情報保護のガイドラインを設置しており、職員がいつでも確認できる。事業所の理念を踏まえ、尊厳を損なうことのない言葉遣いや対応を行っている。個人記録等の設置場所を定め管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活歴に基づいた一人ひとりの「その人らしさ」を、日々の体調や気持ちを考慮した上で尊重している。喫煙習慣がある場合も、気持ちを尊重しながら一定のルールを設けるなど健康に配慮した支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望も取り入れながらメニューを決めている。利用者の個別の状態に応じて食事を美味しく摂ることを大切に、日々の体調に応じて提供している。畑で利用者とともに収穫した野菜を利用するなど、季節感を大切にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、利用者の希望や体調に合わせて週3回、または利用者の希望によっては週5回ほど行っている。職員は入浴の効用と共に疲労を伴うことを理解し、ゆっくりとリラックスしながら入浴が出来るよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴、趣味や特技などを家族から聞き出し、家族の意向も考慮した上で、利用者の能力に合わせて働きかけている。本人の気持ちを大切にしながら事業所での役割の支援につなげている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所の畑や、庭にあるベンチを活用し、戸外に出やすい環境や機会を作っている。商店街に面しているため、買い物などの支援もしている。また、家族の元へ日帰りで出かける際に、職員が送迎も行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の施錠は、行っていない。玄関に鈴を取り付け、音と目で居間から利用者を見守っている。職員ひとり一人が施錠を利用者がどう感じるかを理解し、外出の際は同行している。また、認知症高齢者ネットワーク事業に登録している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間を想定した避難訓練を年2回行い、消防署の協力を得ながら事業所独自の消防計画やマニュアルを策定している。運営推進会議を活用し、地域や行政から指導や協力を得ながら、非常用品の備蓄や非常時に利用できる指定収容避難所以外の建物なども確保している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養指導を受けている利用者もおり、毎食ごとの献立の写真と摂取量、水分摂取量の記録がある。一日の目安として1500～1600カロリー、水分1リットルを基本としている。利用者の好みの飲み物を数種類用意し、食事を美味しく摂れる工夫を、日々の体調に合わせて行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間を清潔に保ち、随所に季節の花を飾っている。居間は、利用者や家族、職員が共に寛ぐことができる空間となっている。利用者の高齢化に考慮し、1階部分の居室の増築を行っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が思い思いの家具などを使用し、その人らしい部屋に整えている。換気や暖房の調整も、温度計を確認して適宜行っている。遺影に供える花を職員と共に摘みに行くなど、本人の希望を取り入れ、居心地よく過ごせるよう支援を行っている。		

※  は、重点項目。